



環境

田んぼが持ついろいろな役割

…自然とのバランスを演出

日本人にとっては、昔から水は身近な存在であり、**瑞穂の国**とも呼ばれるように、3千年以上も前から、水を治めながら**稲作**を中心とした農業により、人の生活や農業と自然のバランスをうまく保ってきました。

その米の生産の場である田んぼは、水をためたり、土が流れてしまつのを防いだり、風景のすばらしさなど、新たな役割も注目されています。

しかし、最近では約3分の1の田んぼは、米以外の作物を栽培したり、休ませたりしています。このように、田んぼの役割は多様になってきています。

例えば、大豆やレタスなどの野菜、さらには牛のイサとなるトウモロコシなど、いろいろな作物が田んぼで栽培されるようになってきています。水がたまらないようにしながら、適度な水分は保つことができるように、土の**耕し**方や、うねの作り方を工夫しています。これにより、水をきれいにする能力は畑よりも優れています。

休ませるときには、水を1年中ためて自然の水生植物を増やし、トンボやメダカなどが生息できる環境をつくることもできます。また、レンゲやクローバーで田んぼの中や周辺をカバーしたり、田んぼの**雑草**が増えないように牛やヤギなどに食べさせるイサとして育てることもできます。

さらに、街の近くでは、水路や川、**湖沼**の水辺に、ヨシやアサザなどの水生植物を植えて水をきれいにし、虫や魚がすむことができる環境づくりも取り組まれています。

これからは、田んぼと植物を組み合わせ、世界に自慢できる、自然にやさしい農業技術を開発することが期待されます。

